

大塚知昇（2018 年度日本英語学会新人賞受賞）

この度は、拙論文“Radical Free Merger”に 2018 年度日本英語学会新人賞をお授けいただき、大変光栄に感じております。本論文は、英語の二重目的語構文において、間接目的語と直接目的語の間に見られる、A/A バー移動に関する非対称性について、現在最新の Chomsky (2015) の枠組みのもと説明を試みたものです。

本論文で扱った英語二重目的語構文の二つの目的語の非対称性は、学部卒業論文執筆時から取り組んできた思い出の深いテーマになります。修士論文執筆時には Chomsky (2001) の枠組みで、博士論文執筆時には Chomsky (2008) と Chomsky (2013) をあわせた枠組みでそれぞれ説明の可能性を探りましたが、満足のいく結論が出せておりませんでした。その後、本論文において Chomsky (2015) の枠組みで同一テーマを再考し、まだまだ不十分な部分を抱えつつも一定の結論に至った経緯があり、結果的に生成文法ミニマリストプログラムの理論の発展を身をもって味わうことができたことは、本当に幸運で有難いことであると痛感しております。

本論文の執筆にあたり、学生時代の指導教官である西岡宣明先生をはじめ、ご指導いただいた先生方、ご助言いただいた九州大学の先輩方、後輩達、そして論文の審査過程にお関わり頂いた日本英語学会 EL 編集委員会の皆様と査読者の皆様には本当にお世話になり、どれだけの言葉を紡いでも感謝をし尽くせない思いです。今後も賞の名に恥じぬよう日々精進して行きたいと思っております。まだまだ未熟な私ですが、皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。